

入院診療計画書(胃切除術を受ける患者様へ)				⑥PATIENTWARD 病棟		⑥PATIENTROOM 号室	
ID番号 ⑥PATIENTID		氏名 ⑥PATIENTNAME 様		症状			
病名(他に考える病名)		担当医師 ⑥USERNAME 印 担当看護師		担当薬剤師		⑥SYSDATE	
月日	術前日 (/)	手術日(/)		術翌日 (/)	術後2日～3日目 (/)	術後4日～6日目 (/)	術後6日目以降退院日
		術前	術後				
経過	検査データを確認しながら、手術へむけて準備を行います。	()時に手術室へ移動します。	術後は病室に帰ります。	水分開始になります。 内服が開始になります。	食事が開始になります 4人部屋へ移動します	安全に日常生活の範囲を拡大していきましょう	退院
目標	手術の必要性を理解できる	手術室へ行くまでの流れ	痛みは我慢せずに、スタッフに知らせるようにしましょう。	痛みは我慢せずに、スタッフに知らせるようにしましょう。 スタッフと一緒に、少しでもリハビリを行いましょう。 ベッドサイドに立てるようにしましょう。	痛みは我慢せずに、スタッフに知らせるようにしましょう。 前日より、リハビリがすすめられるように頑張りましょう。	退院後の生活について疑問点がある場合は、看護師に相談しましょう。	
検査	レントゲン	□麻酔科医師の指示の内服薬があれば、服用してください	手術からお部屋に戻ったら、3時間ごとに検温します	採血・レントゲン (レントゲンはお部屋でとります)	必要に応じて 採血・レントゲン		
処置	入院や手術に関して不安があれば、遠慮なく相談してください	手術前日の流れ	□前あきの下着、病院のパジャマに着替えてください	初めて歩行する時は、看護師が付き添います。 術後早期に歩き始めた方が、回復も早くなります。	創部の管が抜けます	以下の症状があるときは受診日以外でも来院してください。 ・腹痛がひどい時。 ・排便、排ガスがなく、お腹の張りが続いている時。 ・嘔吐が続き、吐き気がひどい時。 ・黒い便が出た時。 ・高熱が出たり微熱が何日も続くような時。 わからない点、疑問点がありましたら、何でも医師や看護師に相談してください。 外来受診について定期受診は必ず行なうようにしましょう。	
注射	ありません	□おへその掃除をします	□弾性ストッキングをはいてください(看護師が用意します)	尿の管と胃の管	痛み止めの管が抜けます		
内服	飲んでいるお薬は、全て看護師にお知らせ下さい。 病棟薬剤師もお薬を確認します。	□入浴(シャワー)	□義歯、めがね、時計、指輪などを外して下さい。	酸素と心電図モニター	薬は正しく服用し、必ず指示通りに内服して下さい。緩下剤の内服については、便の回数や性状を見て調節して下さい。 心配なときは医師に相談して下さい。	たばこは、胃液の分泌を抑え胃粘膜を刺激しますので、 禁煙を続けましょう。 コーヒー・紅茶を摂取したい場合は、空腹時は避け、食後に薄めのものを少量とるようにしましょう	
食事	水分は、1日1000mlを目安に補給してください。	□肩に名前を書きます(医師)	□貴重品は、ご家族の方へお渡しください	立ちましょう。	水分を摂取する場合は、むせりや吐き気がないのを確認しながら飲んで下さい	職場復帰、旅行などは医師に相談してください	
清潔行動	活動、入浴に制限はありません。	病棟を離れるときは、看護師にお知らせ下さい。	□女性の方は、化粧やマニキュアを落としてください。	足のだ底背屈運動を行って下さい。血栓予防になります	食事を摂取しない間も、口の中は清潔にしましょう	入浴のときは… 熱いお湯は体の疲労を伴います。長湯にならないようにしましょう。	
説明	病棟での日常生活を説明します 手術の予定や経過について説明します	麻酔科医師と、手術室の看護師の訪問があります	□髪の高い方は2つに結び、ヘアピンは外して下さい	シャワー浴ができるまで、体拭きをお手伝いします。	シャワーの時は、きずの部分をこすらずに、シャワーで流すようにしましょう。	□次回予約票が渡されます。 □リストバンドを外します。 □栄養指導があります	
胃の手術を受けられる方へ	スーフル呼吸訓練を行ってください	胃のはたらき	朝6時まで水・茶・スポーツ飲料などの水は摂取可能です。 コーヒー・牛乳・野菜ジュースなどは飲まないで下さい。	食事のとりかた	間食の工夫	便秘になったときは…	下痢になったときは…
	必ず禁煙して下さい。	胃は食物を一時ためる臓器です。食物と胃液を粥状にし、十二指腸へ送り出すポンプの役割を担っています。 しかし、手術で胃が小さく、または胃がなくなると、腸や食道に負担がかかりやすくなります。また消化液の分泌も少なくなるので、栄養の吸収も弱まってしまうです。	●姿勢 ・食えるときはベッドを起こすか、椅子に座りましょう。 ・食後30分～1時間は消化を助けるため安静が必要です。 つかえた感じのあるときは、胃の通過を助けるため右側を下にして横になるか、座って様子をみましょう。	5分粥から開始します。 主食の量は、普通の量の半分から開始します。	1回の食事量が少ないため、空腹感があるとき(午前10時や午後3時頃)に間食するとよいでしょう。	・腹部で「の」の字を描くようにマッサージをして下さい。 ・水分を多めにとってください。 ・食物繊維の多い食品をとってください。(玄米・豆・芋類・果物・バナナなど) ・お腹のはりは食事の進みにくい原因になります。湯たんぽなどでお腹を温め、腸の動きをよくしましょう。 ・歩行訓練は腸の動きをよくしますので、体調の良い時間をみて廊下歩行に努めましょう。	・腹部の保温(腹巻き使用) ・脱水になりやすいので、水分を補給しましょう。 ・温かい消化の良い食べ物を摂取しましょう。(お粥・煮込みうどん・葛湯・ヨーグルトなど) ・以前より下痢を起こしやすかった食べ物は、術後も控えましょう。

注1) 病名は現時点で考えられるものであり、今後の検査等を進めていくにしたがって変わり得るものです。
注2) 入院期間については現時点で予想されるものです。
注3) 特別な栄養管理の必要性については、電子カルテ等様式の変更が直ちにできない場合、食事の欄に記載してもよい

特別な栄養管理の必要性
有 ・ 無

上記内容について説明を受け同意いたしました。

署名：	続柄：
-----	-----